

新型インフルエンザ

本格的流行県内でも/重症化兆候 すぐ診断を

松山市・岡本耳鼻咽喉科小児科 岡本 真理子

新型インフルエンザが県内でも本格的に流行し始めました。毎年インフルエンザは抗原性を少しずつ変えて流行していますが、現在流行中の新型インフルエンザは、抗原性が大きく変化しています。そのためほとんどの人は免疫を持たないので、急速に流行が拡大しています。季節性インフルエンザでも一定の割合で重症者が発生しますが、新型インフルエンザの場合も重症者が発生すると予想されます。一時期に集中して大流行すると重症者が多数発生するため、入院ベッドや人工呼吸器などの医療機器が不足し、十分な治療ができなくなってしまう可能性があります。したがって感染の集中・拡大を防ぐ必要があります。

インフルエンザは主にウイルスを吸い込むことで感染します。感染を防ぐためには、マスク、うがい、手洗い、咳(せき)エチケットでウイルスを体内に侵入させないことが大切です。

新型インフルエンザの症状は突然の高熱、咳、関節痛、頭痛、のどの痛みなどで季節性インフルエンザと同じです。そしてほとんどの人が軽症で回復しています。ただし、基礎疾患(慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病などの代謝性疾患、腎機能障害、ステロイド内服などの免疫機能不全)がある人や妊婦、乳幼児、高齢者は重症化することがあります。まれに、基礎疾患のない人でも急速に肺炎や脳症など重症化することが報告されています。経過中に次のような症状が出た場合は、重症化の可能性があるのですぐに医療機関を受診してください。呼吸が速い、息苦しそうにしている、顔色が悪い、嘔吐(おうと)や下痢が続いている、けいれんをおこした、落ち着きがない、遊ばない、反応が鈍い、呼びかけに答えられない、意味不明の言動がみられるなどです。発熱だけでこれらの症状がない人は昼間に医療機関を受診してください。夜間や休日に救急病院に患者さんが殺到すると、重症者の診療に影響が出てしまいます。

診断は鼻汁でウイルスを調べる迅速検査を行います。しかし新型インフルエンザでは陽性率は季節性ほど高くなく、また発症早期では陽性に出ないこともあります。医師は検査だけではなく、診察所見、周囲の流行状況や潜伏期間などを考慮して診断します。

治療は発症48時間以内に投与開始すればタミフルやリレンザが有効で、5日間投与します。ただしタミフルは異常行動との因果関係が不明のため、10代の子どもには使用が制限されています。また子どもには使用できない解熱剤もありますので、医師に相談してください。

重症化を防ぐためのワクチン接種が医療関係者から順次始まりました。今後の情報に注意してください。

愛媛新聞「健康ファイル」

平成21年11月10日(火)掲載